NEWS RELEASE
かがやく"笑顔"のために
森永乳業株式会社
〒105-7122 東京都港区東新橋1-5-2

2026 年 11 月 10 日

森永乳業・デンカ・東洋スチレン・ヤオコー東大和店が共同で水平リサイクル※1 の実現を目指す

4 個パックヨーグルト容器の資源循環に向けた回収実証実験を 12 月 1 日（火）よりヤオコー東大和店にて開始

サステナビリティ中長期計画 2030、「資源と環境」テーマへの取り組み

森永乳業株式会社（代表取締役社長 CEO：大貫 陽一）は、デンカ株式会社（代表取締役社長：石田 郁雄）（以下、デンカ）、東洋スチレン株式会社（代表取締役社長：七井 正成）（以下、東洋スチレン）、ヤオコー東大和店と連携し、当社の 4 個パックヨーグルト容器のケミカルリサイクル※2 による水平リサイクル※1 実現に向けた実証実験を開始します。

※1 使用済み製品を、同じまたは同等の製品として再生し、利用することです
※2 ケミカルリサイクルとは、使用済みのプラスチックを化学的に分解し、原料として再資源化するリサイクル手法です。

本実証では、ポリスチレン製シートから作られる当社の 4 個パックヨーグルト容器（以下、空容器）の資源循環モデルの構築を目指します。12 月 1 日（火）よりヤオコー東大和店に専用回収ボックスを設置し、ご家庭で使用済みの空容器の回収を行います。回収した空容器については、東洋スチレンがケミカルリサイクルにより原料へ再生し、ポリスチレンに再資源化します。その後、デンカが再びポリスチレン製容器シートを製造し、循環利用することへの適性を検証します。

さらに、当社東京多摩工場（東京都東大和市）の製造工程で発生する容器端材を回収し、東洋スチレンにてマスバランス方式※3 を活用し、ケミカルリサイクルによりポリスチレンに再資源化、デンカにてシート化した後、ヨーグルト容器に循環利用することを目指します。

※3 マスバランス方式とは、異なる原料（例：石油由来原料と廃プラスチック由来のリサイクル原料）が混合される場合に、特定の原料の投入量に応じて生産する製品の一部にその特性を割り当てる流通管理方式です。



【資源循環の概要図】



【専用回収ボックス】

これらの実証実験を通じて、食品メーカー、小売、素材メーカーが連携し、生活者の皆さまにもご協力いただきながら、プラスチック資源循環の仕組みづくりを進めてまいります。

そして、森永乳業グループは、今後も環境に配慮した容器包装の設計・使用・循環を促進し、さらなる環境負荷低減を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

■ヤオコー東大和店　回収実験の概要



実施期間：2026 年 12 月 1 日（火）～2027 年 5 月 31 日（月）
回収拠点：ヤオコー東大和店（東京都東大和市立野 3 丁目 1344-1）
回収対象：4 個パックヨーグルトの空容器　例）「ビヒダスヨーグルト 4 ポット」シリーズ

※4 個パックヨーグルト容器以外は回収の対象外です。

回収方法：フタとラベルを取り除き、水で洗って乾かしてから専用回収ボックスに投入



お客さまからのお問い合わせ：0120-369-577

■4 社の役割

・森永乳業　　：4 個パックヨーグルトの製造（容器成型含む）、製造工程で発生する容器端材の提供
・ヤオコー東大和店　：空容器の専用回収ボックスの設置
・東洋スチレン　　：空容器、容器端材のケミカルリサイクルによる再資源化
・デンカ　　：再資源化原料を用いたシートの製造・供給

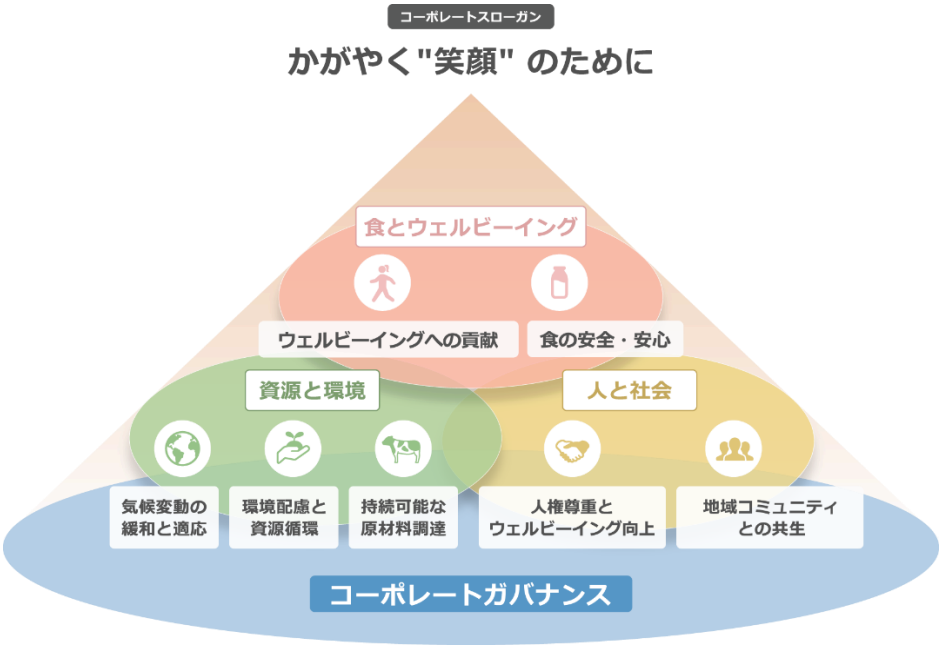
■コメント

森永乳業株式会社コーポレート戦略本部サステナビリティ推進部長　湯谷　太

プラスチック資源を取り巻く環境が大きく変化する中、食品メーカーとして循環型社会の実現に貢献することは重要な責務だと考えています。本実証を通じて、資源循環モデルの可能性を検証し、持続可能な社会の実現につなげてまいります。

■理念-活動体系図｜実現したい未来と道筋

私たちは、あらゆるステークホルダーのかがやく“笑顔”のために、基盤となるコーポレートガバナンスをはじめ、「食とウェルビーイング」「資源と環境」「人と社会」という 3 つのテーマを軸に活動を行い、サステナビリティ経営の実現を目指します。



＜森永乳業ウェブサイト　～森永乳業のサステナビリティ経営～＞
https://www.morinagamilk.co.jp/sustainability/management/